

2020年1月NHK関東甲信越地方放送番組審議会

1月のNHK関東甲信越地方放送番組審議会は、17日(金)、NHK放送センターにおいて、7人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、甲府放送局の取り組みと今後の予定について報告した。その後、ヤマナシ・クエスト「YAMANASHI INNOVATION 女性社長のチカラ スペシャル」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、2月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

(出席委員)

委員長 原 拓男 (千曲錦酒造(株)相談役)
委員 岩佐 十良 ((株)自遊人代表取締役)
尾形 玲子 (養蜂家、ひふみ養蜂園(株)代表取締役)
杉山 弘子 (アサヤ食品(株)代表取締役社長)
杉山 正司 (元埼玉県立文書館館長)
仁衡 琢磨 (ペンギンシステム(株)代表取締役社長)
宮田麻一美 (万座温泉日進館女将)

(主な発言)

<ヤマナシ・クエスト

「YAMANASHI INNOVATION 女性社長のチカラ スペシャル」
(総合 12月6日(金)放送<山梨県域>) について>

- 民放とのコラボレーションは、内容に柔らかさや明るさが加わり非常によかった。たくさんの業種が紹介されていたので、興味深く見ることができた。仕事をする上でのヒントも得られた。志賀隼哉アナウンサーは笑顔が印象的だが、いつもにもまして満面の笑みで、楽しく番組を進行する様子がよかった。女性が社長になり会社を経営していくには、課題も多いと思う。今回の番組では、大変な面に触れながらも、仕事上のさまざまな問題の解決策や気分転換の方法などを具体的に紹介していて、前向きな気持ちになれた。しかし、あえて女性の社長にフォーカスするのであれば、もっと家族との関係や体力的な厳しさ、現代の日本社会で女性たちが求めら

れている役割や地方で仕事をする女性ならではの具体的な課題を提示してもよかつたのではないか。山梨県に女性社長が多い理由も興味深く、これまで夕方の番組で放送してきたシリーズのスペシャル版として、地域だけでなく全国的に成功を収めた事例も伝えており、見応えのある番組になっていた。

- 女性が社会進出することに伴う課題をメディアが伝えていくことは重要だ。登場した女性社長のことばの一つ一つから、アイデアを出しながら工夫して仕事に取り組んでいる様子が伝わってきた。しかし、それは女性社長だからできることなのだろうかという疑問が残った。番組後半の、山梨県はなぜ女性社長が全国で3番目に多い県なのかという説明には納得できる部分もあったが、社員への気配りや女性社長たちの朝ご飯を紹介する場面について、女性だからできるということではないと思う。番組全体で分かりやすく伝えるためには女性ならではの切り口も必要かもしれないが、バランスも考慮してほしい。ただし、女性の活躍に絞って伝えていかないと、世の中が変わっていかないということを考えると、今回のようなスペシャル版を放送することは有意義なことではある。

(NHK側)

何を持って女性ならではのとするかは、見方によって違うということを議論をしながら進めたが、バランスを取るのが難しかった。VTRで伝えた内容とスタジオ部分で紹介した内容は、やや多岐にわたりすぎていたかもしれない。

- さまざまな業種の女性社長を紹介しながら、起業を支援する自治体の取り組みも伝えていて、見応えがあった。朝食は1日のスタートを切るために重要な要素だが、番組で取り上げた女性社長たちは、人が生活を営む上で基本となる食べることをきちんと行っているから輝いていけるのだという印象を受けた。女性社長のプライベートの姿も紹介しながら働く様子をしっかりと伝えており、これから起業しようとしている女性にとっては、希望の持てる番組だったのでないか。

(NHK側)

働く女性の苦労を描く上で、家事などのプライベートな部分を伝えられないかと考え、一日の始まりである朝食を取り上げた。

- 山梨県は、女性人口10万人あたりの女性社長の人数が、全国で3番目に多いということはあまり知られていない情報だと思うので、よい着眼点だった。地域の

ニュース番組で継続的に取り上げてきた企画のスペシャル版なので、列伝的になるのは当然だと思うが、紹介する人数が多すぎたのではないか。人数を絞って、1人1人の話を深く聞いたほうが、彼女たちがやってきたことが具体的に分かり、より「女性社長のチカラ」を感じることができたのではないか。番組で紹介された運送会社の社長は、女性だからというわけではなく、経営者として非常に優れた方のように感じた。番組で語った内容は示唆に富むすばらしい話だった。性別にこだわらず優れた社長を何人か紹介し、最終的に多くの女性が活躍しているという見せ方でもよかったかもしれない。また、山梨県で女性が活躍するようになった理由の一つに、養蚕の盛んな地域だったからという説明をしていたが、若干説得力に欠けていると思った。しかし、女性社長の朝食を紹介していた点はよかった。今回は一部の人たちの朝食しか紹介されていなかったが、統計的な裏付けも含めて説明すると、より納得感が得られる内容になったのではないか。また、今回は番組のタイトルが「女性社長のチカラ」なので、これから起業する人たちに向けた取り組みの紹介は、番組の視点がぼやける原因となり、残念だった。シェアオフィスでの収録は開放的だったが、プレゼンターの2人がずっと立っていたことや、座っている人たちの足元が見えていることが気になった。スタジオ以外で収録を行う際も、番組をゆっくり見られるような工夫をしてほしい。

- 女性人口10万人あたりの女性社長の人数が全国3位という順位を見せるのであれば、前後の順位に位置づけられている県との比較があると、視聴者はより興味を持って番組を見ることができたと思う。県域向けの放送なので山梨県の人たちは分かっているのだろうが、なぜ民放とコラボレーションをしているのかが分からず戸惑った。初めて番組を見る人たちもいると思うので、説明があってもよかった。番組全体を通じてよい面が多く取り上げられていたので、苦勞している部分も紹介したほうが、番組にメリハリがついたのでないか。一方で、女性が起業しやすい環境を作るための県の取り組みの紹介は、自治体の活動を知ることができてよかった。

(NHK側)

番組で紹介したデータについては、大手リサーチ会社の「全国女性社長」調査を参考にした。女性人口10万人あたりでは、1位が東京都、2位が沖縄県で、人数は東京都が圧倒的に多いということだ。

- 甲州商人や地域の特性が分かり、非常に勉強になる番組だった。それぞれの女性社長が試行錯誤しながらさまざまな努力をしている様子も分かり、見習いたいと思った。従業員の姿を見るとその会社のトップがどのような人なのか想像できると

言われるように、仕事以外でも自己研さんを積みマナーや考え方を学んでいくことが重要だと思った。女性が社長業を営むにあたってのアドバイスや彼女たちの背景について説明があると、より役立つ番組になったのではないかと。

- 番組冒頭で 870 人という数字を提示し「これは何の数字か」と問いかけたのは、視聴者が番組にひきつけられるきっかけを作るよい演出だった。女性人口 10 万人あたりの女性社長の人数が全国 3 位という順位も、山梨県にこれほど女性社長が多いのかという驚きを与え、番組を見る動機になったと思う。3 人のゲストの活動を映像で紹介するとき、彼女たちの席順と紹介順が違っていたことに違和感を覚えた。民放とのコラボレーション番組だったが、どの部分をコラボレーションして制作したのかが分かったとよかった。また、成功する人たちがいる一方で、苦労しながら悩んでいる女性社長の方も多と思うので、逆境の乗り越え方や失敗談、息抜きをする方法などを紹介したほうが、視聴者もより興味を持って見ることができたのではないかと。番組全体は適切にテロップが入り見やすい構成になっていたが、甲州財閥についての説明はもう少し詳しくした方が分かりやすかった。最後の出演者からのメッセージは、いずれのメッセージも、今後起業家を目指す女性たちにとって参考になるすばらしいものだった。
- 山梨県だけでなく、日本全体でもソーシャルビジネスは注目されている。そうした中、周囲の人たちを笑顔にすることにかかわるビジネス、財政事情の厳しい自治体に代わり、ビッグビジネスだけでなく、小さくても形にする人たちがいることが重要であり、そこに女性の力は欠かせないというメッセージが強く伝わってくる番組だった。飽きさせない工夫や山梨県民に「そうだ」と納得してもらえ、あるいは共感してもらえ番組づくりの姿勢を感じることができた。登場した山梨県の女性社長はそれぞれがすばらしいものを持っており、新しいビジネスモデルのあり方や社員教育の重要性、気配りや細やかさの大切さなど、仕事をするうえで多くの気付きがあった。出演者の女性 3 人は企業を支援する立場の方、起業家の方、事業継承者の方とバランスがとれており、よい選定だった。プレゼンター役の 2 人も好印象だった。志賀アナウンサーは女性に囲まれながら男性 1 人で進行していて、番組をしっかりとリードできていたと思う。
- 大変意欲的な企画だったが、情報が多すぎたように思う。何に焦点を当てて見たらよいのかが分からなかった。1 人 1 人の取り組みがすばらしいだけに、情報の多さから印象が薄まってしまった点は残念だ。女性社長に共通するのは事業としての効率に加えて、人の気持ちになって発想し、人そのものを大切にしているところだと感じた。常識を疑うという感覚も新鮮だった。運送会社社長のマナー教育や外国

人派遣会社社長の「働くことは生きること、人は人らしく」ということばが印象に残った。特に外国人社員の心の不安に寄り添い、地域での人間関係も含め生活環境から整えていくという取り組みはもっと詳しく知りたかった。山梨県の女性は金銭感覚と行動力が優れており、それは養蚕が盛んだったことから来ているという説明も興味深かった。女性社長たちの朝ごはんや気分転換の方法の紹介は楽しく見ることができたが、番組全体に少し雑多な印象を与えてしまったことも否めない。焦点を絞ればさらに心に残る番組になると思うので、次に期待したい。

<放送番組一般について>

- 1月1日(水)のNHKスペシャル 2020巻頭言「10 Years After 未来への分岐点」(総合 後9:00~10:15)を見た。世界中で急増している海のプラスチックごみを回収するために、一人の青年がゴミを回収するためのアイデアを世界規模のプレゼンテーションの場で訴えかけ、実際に寄付が集まったという話には驚いた。一人の青年の呼びかけをきっかけに、世の中を変えていけることは、素晴らしいことだと思った。
- 1月11日(土)のNHKスペシャル「認知症の第一人者が認知症になった」を見た。主人公と家族の会話を中心に番組が進行していくなかで、視聴者が認知症を自分のこととして考えることができる内容だった。1年にわたる取材を通じて医師の長谷川和夫さんの表情から徐々に認知症が進行している様子やそれに伴う家族の葛藤も感じとることができ、テレビという映像メディアならではの伝え方だと思った。長谷川さんは「君自身が認知症になって初めて君の研究は完成する」という先輩のことばを支えに、今回の取材を受けたのではないかと思う。家族は公表することにためらいなどはなかったのだろうか。

(NHK側)

認知症であることは長谷川さん自身が公表している。これまでもニュースの企画などで取材し、長谷川さんや家族との信頼関係を築くなかで、今回の番組を制作した。

- 1月13日(月)のNHKスペシャル「アイアンロード~知られざる古代文明の道~」(総合 後9:00~9:59)はすばらしかった。特に遺跡や戦闘の場面がリアルだった。あれはどのように撮影していたのか。

(NHK側)

戦闘シーンなどは海外のプロダクションの協力を得て撮影した。

- NHKスペシャル「新・映像の世紀」は、歴史上の人物が発言する様子や出来事が実際の映像で紹介されており、過去の出来事を現実感をもって理解することができる番組だ。映像の持つ力を存分に発揮しながら、このように過去の出来事を記録する番組を続けてほしい。
- 12月30日(月)の「スペシャルドラマ ストレンジャー～上海の芥川龍之介～」(総合 後9:00～10:13)を見た。脚本もセットもすばらしかった。現代を生きる私たちにも通じるメッセージ性のあるドラマで興味深かった。
- 1月11日(土)のスーパープレミアム「山本周五郎ドラマ さぶ だれだって一人じゃない! 切なく泣ける友情物語」(BSプレミアム 後9:00～10:59)を見た。昔と比べて時代劇が少なくなっていると感じるなかで、このようなドラマは貴重だ。主演の2人は杉野遥亮さんと森永悠希さんで、かっこいい栄二とおっとりしたさぶを上手に演じており、すばらしかった。物語の主人公は2人いるが、原作者が「さぶ」と一方の名前だけを本のタイトルにしたことの意味合いが、ドラマを通じて描くことができている。また、ドラマの最初と最後に現代の風景を入れていた点が非常によかった。「だれだって一人じゃない」という番組のテーマが時代を越えて伝わるシーンだった。
- 12月31日(火)の「ゆく年くる年」(総合 後11:45～1月1日(水)前0:15)を見た。去年は数多くの台風が日本列島を直撃しさまざまな地域が被害を受けたが、千葉県館山市の布良崎神社からの中継は印象的だった。
- 1月8日(水)の歴史秘話ヒストリア「あらためて知りたい! 明智光秀」を見た。明智光秀の前半生にもスポットをあて、歴史好きの視聴者を満足させる内容だった。医者としての知識も持っていたという紹介には驚いた。なぜ明智光秀が謀反を起こしたのか、歴史の舞台裏を見るようなワクワク感があった。これから始まる大河ドラマ「麒麟がくる」の予告編を見ているようでもあり、「麒麟がくる」を新しい観点で見ることができそうだ。
- 1月16日(木)のNET BUZZ「東京ミラクル 第3集 最強商品 アニ

メ」を見た。世界に誇る日本のアニメを作っているアニメーターたちの情熱的な働きぶりが描かれており、心に残った。

- 1月17日(金)の「阪神・淡路大震災20年ドラマ 二十歳と一匹」(総合 前0:55~2:08)を見た。改めて、主演の菅田将暉さんは人をひきつける役者だと感じた。1月17日は阪神・淡路大震災が発生した日だが、ニュース番組だけでなくドラマなどの手法も使って伝え続けることも大切だと思う。

(NHK側)

「阪神・淡路大震災20年ドラマ 二十歳と一匹」は震災20年の節目として、2015年に大阪放送局が制作し放送した番組で、神戸などでロケを行った。今回は震災が起こった日に合わせて再放送をした。過去に制作した番組も適切なタイミングで編成しさまざまな形でメッセージを伝えていきたい。

(NHK側)

阪神・淡路大震災や、東日本大震災などについては、発生した日に関連番組を集中的に編成するなどして多角的に伝えていきたい。

- 「いないいないばあっ！」や「おかあさんといっしょ」は、親が教えなくても子どもたちが自主的に何かを学ぶ際に役立つ番組だと思う。また、NHKの2020応援ソング「パプリカ」も大変人気が出て、多くの子どもたちが踊っており、ここまで子どもたちに浸透するものを制作できるNHKのすごさを実感した。

(NHK側)

Eテレの番組は発達心理学などの専門家の知見を生かしながら制作している。今後も子どもたちに安心して見てもらえる番組を制作していきたい。

- 「100分de名著」をいつも楽しく見ている。1月は「貞観政要」という中国の書物を取り上げており興味深かった。司会の伊集院光さんのコメントが的確で、番組を成立させるための大きな力になっていると思うが、ゲストも含めてそれぞれ出演者が最初にテーマとなる書物との関わりについて話すと、より番組をおもしろく視聴できるのではないかな。

(NHK側)

「100分de名著」のスペシャル番組として1月1日(水)に「100分deナショナリズム」を放送した。稲垣吾郎さんをゲストに迎え、本が好きだという話をさせていただいたが、頂いた意見は今後の参考にさせていただく。

- 12月24日(火)のBS1スペシャル「沁(し)みる夜汽車 2019冬」(BS1 後8:00~8:50)を見た。鉄道にまつわる5つの物語をまとめて見ることができ、とてもよかった。番組を見終わってからタイトルのロゴが変わっていたことに気づいた。「沁」の「し(さんずい)」が跳ね上がり「心」にかぶさっていたが、最後まで見るとその意味がよく分かった。「ひかり1号が走った日~JR東海道新幹線~」で、下りのひかり1号の運転士が乗客などの思いをのせて運転する様子がよく表現されていた。「愛犬タカが守ってくれる~JR肥薩線 大畑駅~」では、再現ドラマのイヌの動きが自然で、まるでドキュメンタリーを見ているような感覚になった。涙なくしては見られない番組だった。「駅そばが紡ぐ縁~JR常磐線 我孫子駅~」や「息子が遺した機関車~アルピコ交通 上高地線~」も人と人との縁を感じさせる内容だった。映像も脚本もさまざまな要素が詰まっており、非常によかった。今後も楽しみにしている。
- 1月4日(土)のBS1スペシャル「大火災 森林・都市を襲うメガファイアの驚異」(BS1 前9:00~9:50、前10:00~10:49)と「大水害 メガシティを襲う洪水・高潮の恐怖2019」(BS1 前11:00~11:50、後0:00~0:49)を見た。特に「大火災」は、オーストラリアの森林火災が問題となっている中でのタイムリーな放送だったので、いつから制作を行っていたのかが気になった。

(NHK側)

BS1スペシャル「大火災 森林・都市を襲うメガファイアの驚異」の企画がスタートしたのは昨年3月で、フランスの制作会社との共同制作になる。ブラジルやアメリカ、インドネシアなどの地域で火災が頻発していることから企画したものだ。なお、BS1スペシャル「大水害 メガシティを襲う洪水・高潮の恐怖2019」は、過去に制作した番組に新しい情報を加えたものを放送した。

- 環境問題、地球温暖化の問題をNHKが先取りして企画したように感じた。オーストラリアの森林火災は9月から問題になっており、番組で警告していた森林火災

の危険性が的中したような形になっている。

(NHK側)

フランスの制作会社の企画に、NHKも参加した。気候変動に関する番組は、過去にも何度か放送してきたが、今後も制作していきたい。

- 1月9日(木)のコズミックフロント☆NEXT「宇宙から診断 地球の健康チェック」を見た。明るく楽しい雰囲気進む番組で、子どもたちも見やすい内容なので、総合テレビで放送してもよいのではないか。世界では環境教育を始める国もあると聞いているが、日本の学校教育でも、今回のような番組を活用しながら環境問題について伝え続けていくべきだと思った。
- 1月1日(水)のNHKスペシャル 2020巻頭言「10 Years After 未来への分岐点」(総合 後9:00~10:15)を見た。環境問題に関する報道は非常に難しい面がある中、この番組を制作し、元日に放送していることに意義があると思う。学校の授業で取り上げてもいいような番組だった。今、私たちが何をすべきなのかを考えさせられた。さまざまな世代、異分野のスタジオゲストがそれぞれの観点で自分たちの体験も含め、語り合っており、率直な言葉が印象的だった。実例を挙げた紹介は具体的で説得力があった。自分にできることを探そうという気持ちになる番組だった。1人でも多くの人に知ってもらうためにも、このような番組は定期的にシリーズで放送してほしい。

NHK編成局
番組審議会事務局